

# 熊本市と災害時連携協定を締結 市民生活の安全を守る取組みを

公益財団法人熊本YMCAは、災害時における救援活動並びに平常時における防災活動への協力に関する協定を熊本市と締結しました。6月1日(金)に熊本市役所で行われた調印式に、理事長の吉本貞一郎さん、総主事の堤弘雄さん、本部事務局長の久保誠治さんが出席しました。

この協定は、災害発生時に熊本YMCAがプールの水的生活用水としての提供や救援救助に伴う施設・備品の提供、ボランティアのコーディネートを行うことなどが主な内容。昨年8月に、熊本YMCAは、同様に合志市と災害時の協力協定を結んでいます。



調印後、握手を交わす熊本市長の幸山政史さん(左)と公益財団法人熊本YMCA理事長の吉本貞一郎さん(右)

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

# YMCA

K U M A M O T O

# NEWS

YMCA July 2012 vol.482

# 7



田植えに挑戦する子どもたち(リフレスおおむた)

**C O N T E N T S**

- ① 熊本市と災害時連携協定を締結
- ② 水上安全キャンペーン  
ヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン  
花の日(ぶどうの木幼稚園・ながみねラッコクラス)
- ③ 介護技術講習会/社会福祉学科通信制10周年  
アガベNo.76「何事にも時がある」
- ②・③ REPORT ジェーンズワイズ25周年/県体操競技大会/  
チャリティミニバレー/チャリティボウリング大会
- ④ Life 第48回 テーマ「登校拒否・不登校」  
フレズネットワークくまもと 江藤圭子さん①  
Topics 中央YMCAウエルビーノ/阿蘇YMCA  
ミシガンキャンピング/リフレスポランティア

## 災害時における生活用水等の供給及び 平常時における防災活動への協力に関する協定書(概要)

### 【趣旨】

1. この協定は、地震、風水害その他の災害が発生し、または発生するおそれがある場合(災害時)に、熊本市が公益財団法人熊本YMCA(以下YMCA)の協力を得て、被災者に対して、より速やかに、かつ円滑に協力して、物資を迅速かつ円滑に被災地へ供給するために必要な事項を定める。

2. 熊本市はYMCAに対して、支援活動を要請し、YMCAは社会貢献の一環として、支援活動への協力に努める。

### 【災害の対象】

この協定の対象となる災害は、次のとおり。

1. 熊本市地域防災計画に基づき、熊本市水防本部、熊本市災害警戒本部または熊本市災害対策本部が設置される状況下での災害
2. 緊急事態に係る被災

### 【供給できる物資・支援】

供給を要請する物資と支援は、次のとおり。

1. 生活用水
2. 被災者の救援・救助に伴う施設・備品の提供
3. ボランティアコーディネート・ボランティア活動等の支援
4. その他、特に熊本市から要請のあった支援等

### 【物資供給の要請】

熊本市は、災害時において物資を調達する必要があると認めるときは、YMCAに対して、物資供給の要請を行うことができる。

### 【物資供給の協力】

YMCAは、熊本市から要請を受けたときは、YMCAの営業に支障のない範囲で可能な限り物資の優先供給に努める。

### 【平常時の活動】

熊本市とYMCAは、この協定に定める事項を円滑に推進するため、平素から情報の交換や熊本市が行う防災訓練への参加等に努める。

### 【情報交換】

熊本市とYMCAは、平常時から相互の連絡体制及び物資の供給等についての情報交換を行い、災害時に備える。

理事長の吉本貞一郎さんは、今回の調印式で次のように挨拶されました。

「熊本YMCAは設立から63年が過ぎ、この4月に公益財団の認定を受けました。

設立当時、知名度の低かったYMCAの名前を熊本の市民の方々に知っていただいたのは、1953年(昭和28年)と1957年(昭和32年)の熊本大水害での救援活動だったようです。

現在でも、災害が起こった時にはいち早く支援に取り組み、街頭募金などを行っています。それには保育園・幼稚園の園児、サッカーや水泳・体操に通う子どもたち、専門学校や学生、ボランティアの社会人の皆さんといるいろいろな年齢の多くの方々が協力してくださいます。

歴史的にも、また『熊本YMCAの使命』からも、私たち熊本YMCAは地域社会へ奉仕する

ことを役割の一つとっております。多発する自然災害などに官と民が一緒になって市民の生活を守ることは、熊本市が掲げられています。『選ばれる熊本市』にやささかでも貢献できるので、はと願い、本日の締結によってお役に立てることを幸いに存じます。」

現在、熊本YMCAには、プールを有する、みなみながみねファミリー・むさしの3つの「ウエルネスセンター」をはじめ県内各地に複数の施設があります。日頃から、様々なプログラムや活動で地域の人々が集う場所であるYMCAが、協定締結をきっかけに地域の防災・災害時の拠点としての働きをさらに強めていくことが期待されています。



今年5月にリニューアルしたながみねファミリーYMCAのプール。災害時には、YMCAのプールの水が生活用水として活用されるほか、被災者救援の拠点ともなる。

## わたしと聖句

フィリピの信徒への手紙4章4節

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。

### 常に喜ぶ生活

子どもが何か欲しい物が与えられた時に喜ぶような世俗的な外面的な喜びでさえそうめつたにあるわけはありません。パウロは「主において」と言っています。主を信じて主と結合している中で知る喜び、現実には彼自身は問もなく殉教するかもしれない牢獄にあって、フィリピ教会内のユダヤ主義者や不一致の諸問題、様々な苦痛と不安以外何もないという場合であってもキリストにおいて喜びなさいと言っているのです。

彼が生涯に受けた多くの困難、試練、労苦、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え、渇き、寒さに凍え、裸でいたこともあって本心に弱ってしまったと言っています。私たちの生活も順調な日ばかりではありません。若い時は何でも与えられ加えられ増していきませんが、年を重ねるにつれ、今度は一つ一つ取り上げられ失うものが増えてきます。私も遂に一人になりました。心は熱していても肉体の弱さ、気力はあっても体力の衰えを覚え、す。しかし落胆しないで外なる人は衰えていくとしても内なる人は日々新たにされていく喜びを味わっています。あらゆる物を失い、すべての人を失うことがあっても、共におられる主イエスを失うことは決してないからです。

日本ホーリネス教団 熊本キリスト教会  
柴崎 美智子

# かけがえのない生命を大切に守ろう！ 水上安全キャンペーン

本格的な夏になると、海や川、プールで水遊びをする機会が多くなります。楽しいはずの水遊びが、ちよつとした不注意がもとで尊い命を失ってしまう事故にならないよう、YMCAでは安全教育の一環として全国で『水上安全キャンペーン』を展開しています。

熊本YMCAでも、子どもたちが命の大切さを伝え、水の事故を未然に防ぐために必要な知識と知恵を学んでもらうことを目的に「水上安全講習会」を開催しています。プログラムは、衣服を着用したまま水の中に入る着衣泳体験や心肺蘇生講習、万一事故に遭遇した時の対処法など。各YMCAのスポーツスクールなどのほか、近隣の小学校や幼稚園、保育園でも行っています。

6月21日(木)、合志市の「かすみ保育園」では、保護者参観に合わせて、5〜6歳児と保護者に向けて講習が開かれました。

リーダーが紙芝居「みずのあんぜん」や、着衣のままプールに落ち



てしまう寸劇を披露。子どもたちは「危ない」と声を上げたり、真剣な表情で水の中のリーダーを心配したり。水遊びをする時は子どもたちだけで出かけないこと、川に落ちた人を助ける時には最初

に大きな声で大人を呼ぶことなどを約束しました。また、ペットボトルやビニール袋などを浮き輪代わりにする方法など、救助を待つ間にできることも学びました。保育園の梅尾和美さんは、「保護者の方にも、水遊びの中にある危険を知ってもらおう大切な時間になっていきます。家庭でも水に関する会話が增え、子どもたちの心に命の大切さを考える気持ちが増えるようです」と話してくれました。

熊本YMCAでは、熊本県・熊本市・合志市・阿蘇市教育委員会などの後援を受け、地域の小学1年生を対象に「ウォーターセーフティハンドブック」も配布しています。ぜひ家族でも大切な生命を守るために話し合い、夏を楽しむ安全に過ごしてください。



# 家族で楽しく運動 ヘルシーキッズ キャンペーン

YMCAでは、楽しみながら運動習慣を身につけ、家族の絆を深めることを目的に、「ヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン」を展開しています。6月17日(日)、中央・みなみながみねファミリー・むさしの4つのYMCAで逆上がり教室やスイングなどのプログラムのほか、親子ボクシングや体力測定といった様々な講習会が開かれ、多くの家族や親子が参加しました。

この日は「父の日」。子どもたちの様子を間近で見たり、一緒に汗を流すことで、親子の仲も一段と深まったようです。



# 感謝を込めて 「花の日」の贈り物

日頃お世話になっている人たちに感謝の想いと花を贈る「花の日」にちなみ、みなみYMCAぶどうの木幼稚園の子どもたちが6月11日(月)、熊本市西消防署を訪れました。

「花の日」は19世紀に米国の教会で始まったもので、6月2日曜日の前後に、YMCAの幼稚園や保育園では近隣の警察署や福祉施設を訪問し、花を届けています。

ぶどうの木幼稚園の園児は、花や感謝のカードとともに、讃美歌や歌を披露。同日、ながみねファミリーYMCA体育英語幼児園ラッコクラスの園児は、熊本赤十字病院の職員へ花と手作りの鉛筆立てをプレゼントしました。



# ジェーンズワイズメンズクラブ 25周年記念例会開催

■日時/5月19日(土)17時半  
■場所/熊本全日空ホテルニュースカイ

熊本ジェーンズワイズメンズクラブの25周年記念例会・懇親会が開催され、138名が出席。例会では5名の歴代会長の挨拶、西日本ワイズ基金や上通YMCAへの奇贈、熊本クラブへの感謝状贈呈のほか、3名の入会式も行われました。例会後はサブライズゲストの「くまモン」が登場し、盛り上がりま



懇親会ではバンド演奏やバナナの叩き売りが会場の注目を集めました。久しぶりの再会を喜び、あちこちのテーブルで歓声が上がる中、25周年記念DVDを視聴し、会は締めくくられました。  
実行委員長  
ジェーンズクラブ 金澤知徳

# 県体操競技大会で 体操チーム生が大健闘

■日程/6月16日(土)・17日(日)  
■場所/熊本県立総合体育館

熊本県小・中学生体操競技選手権大会が開かれ、熊本YMCA体操チームのメンバーが健闘を見せました。小学生女子個人総合では、小林菜生さん(6年生)が見事優勝。中学生男子種目別でも、ゆかて桑野莞汰さん(1年)が、あん馬で甲斐田伊吹さん(1年)が優勝するなど、躍進を遂げました。



指導する高原憲吾さんは、「今年度初めての試合で緊張が見られましたが、冬季トレーニングの成果が出たようです。今回得た感触や課題を糧に、7月の大会に向けて頑張ってください」と話しています。

アガへ No.76

総主事 堤 弘雄

何事にも時がある

何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。生まれる時、死ぬ時、植える時、植えたものを抜く時、殺す時、癒す時、破壊する時、建てる時、泣く時、笑う時、嘆く時、踊る時、石を放つ時、石を集める時、抱擁の時、抱擁を遠ざける時、求める時、失う時、保つ時、放つ時、裂く時、縫う時、黙する時、語る時、愛する時、憎む時、戦いの時、平和の時。人が労苦してみたところで何になる。わたしは、神が人の子らにお与えになった務めを見極めた。神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終りまで見極めることは許されていない。

(コヘレトの言葉3章1節～11節)

この聖書の「天の下の出来事には定められた時がある」とはどういう意味でしょうか。少なくとも、神様が定められたからその時に定められたことが起こるという意味ではないと思います。それは運命論であり、運命論は、何をしようと結局は決まったところに行きついてしまうというもので、キリスト教の歴史観ではないからです。運命論の反対側には、すべてが偶然であるという考え方がありますが、もし、そのように考えれば、歴史は偶然の連続にすぎないことになってしまいます。

私たち人間の日頃の行動や選択と神のなさる業が密接に関係し合って、人生という物語が綴られていくと考えるのが自然なように思えます。聖書にあるように人生にはいろんな「時」がありますが、自分の力で頑張れる部分と、神様に委ねるべき部分があるように思います。また、自分が考えてどうにかなる領域と悩むより神様に委ねた方がいい領域もあると思います。神を信頼して委ねることができれば、不安が減り、穏やかな気持ちで生きていけると思うのです。



方などを一人ひとりにしっかりと指導。少人数のグループで、お互いに介助する側、される側になり、実践的な介助法を学んでいきます。「職場では自己流になりがち。体の機能を知ること、患者さんが楽に介助できるとわかりました(病院勤務/堀口加世子さん)」「スケジュールがタイトですが、基礎を集中して学べるのがいい(ケアワーカー/清田寛さん)」「資格取得はもちろんです、仕事にもつなげていきたい(ケアハウス勤務/福光和美さん)」「注意すべき点を的確に指摘してくれるのでわかりやすい(養護老人ホーム勤務/東里香さん)」と、受講者は学んだ技術を職場でも活かしたいと話します。現在、8月以降の受講受付中。筆記試験対策講座や模擬試験も開催されています。

資格取得を全力応援！介護技術講習会

2005年にスタートし、東部YMCAで開催されている「介護技術講習会」。今年度も4月から始まり、10月まで11回実施されます。厚生労働大臣の認定を受けたこの講座は、修了すると介護福祉士国家試験の実技試験が免除になるため人気の高い講座で、修了生の数は県内で最多。実技試験が免除になれば筆記試験の勉強に集中できることがポイントです。ヘルパーや介護施設勤務者など実務経験者が参加し、スキルアップに最適。講習会では、車いすへの移乗や移動、排せつ、衣服の着脱、食事、入浴の介助、コミュニケーションの取り

社会福祉学科通信制10周年 開設からこれまで

社会福祉士の養成校を開設することが決まり、準備を始めたのが2000年の初めでした。申請書類の確認に何度も厚生省(現厚生労働省)に足を運ぶ傍ら、講師や実習施設の依頼に奔走し、なんと2001年3月に計画書を提出することができました。その間、いろいろな方々に相談に乗っていただき、ともに協力いただいたことを思い出します。それから1年をかけて募集と開講準備をして、2002年4月から開講することが



YMCA学院 日野充裕

できました。初年度は87名の受講生でしたが、皆さん熱心に勉強に取り組み、ほとんどのの方が1年7カ月で修了、多くが国家試験に合格して社会福祉士になりました。あれから10年が過ぎましたが、今では精神保健福祉学科通信制も加わり、社会福祉学科の修了生が精神保健福祉学科に入学するなど、ますます勢いが出ています。修了生が社会福祉士となつて、それぞれの地域で活躍しています。受講生も熊本はもろろ鹿児島・宮崎など九州各県に広がり、3年前からは長崎にスクーリング会場を設けて、より多くの人に学んでいただく機会を設けています。社会福祉士の活躍の場は年々広がってきており、社会に必要とされる人材をより多く輩出できるような教育活動を続けていくことができることを願っています。

ミニバレーで地域交流

日時/6月10日(日)8時半～12時  
場所/中央YMCA体育館



東日本大震災復興支援を目的に、チャリティミニバレー大会が実施されました。中央YMCA副運営委員長の平野俊晴さんの「スポーツで地域のコミュニティを強めよう」との提案によるもので、昨年に続き2回目の開催。当日は、近隣4校区のミニバレークラブとスタッフ、9チームの41名が参加しました。熊本YMCA東日本大震災支援活動の映像を見た後、試合開始。各コートで熱戦が繰り広げられ、スタッフチームは健闘及ばず9位に終わりました。

企業人がボウリングで社会貢献

日時/6月13日(水)18時45分～21時  
場所/マスターズボウル熊本



家庭を離れて生活する児童養護施設の子どもたちをデイキャンプに招待することを目的に開催され10回目。今回は、東日本大震災・福島第一原発事故の影響を受けて熊本へ避難してきた人たちを支援する「熊本被災者支援プロジェクト」にも益金の一部が贈呈されました。参加したのは16企業・団体の約150名。ストライクを出したプレイヤーが100円を募金する仕組みで、参加者は楽しみながらボランティアでできる喜びを共有するとともに、他企業の社員とも交流。仕事帰りに充実した時間を過ごしました。

# Life

第48回

「いのち」「生活」「いきがい」をテーマにしたメッセージ。



登校拒否・不登校に学ぶ  
フレンズネットワーク  
くまもと 代表

江藤 圭子さん ①

## 子どもが未来に向かって歩き出すため、 親たちも語り、学び合える場を大切に

登校拒否・不登校への理解を深め、一人で悩んでいる親たちをつなぐために活動を始め、16年目を迎えました。子どもの状態に不安や悩みを抱える親が集まり開いた集会の分科会で、参加したほとんどが不登校児を持つ親だったことがきっかけです。毎月第2土曜日に「親の会」を開き、子どもの年齢に合わせたグループで語り合った後、全体で一つの輪になって話をする場を設けています。「話すのも自由、話さないのも自由」とし、親が自分の体験や悩みを語り合う時間です。また、その体験談をまとめた通信「ふれんず」を発行しています。

大切にしているのは、「他人の話をしみ通るように聞くこと」「自分のことを自分の言葉で誠実に話すこと」「その場で話されたことをその場にはいない人に話さないこと」という齊藤学さんの言葉です。そして最も大事なのが「他人の言うことに批判や解釈を加えないこと」。仮に正解を突きつけられても当事者は苦しいだけ。一人の悩みは全員の悩みであり、様々な考えや思いにふれることで、見えなかったことが見えてくるかもしれないと考えています。親や教師など、立場が異なっても、子どもたちが未来に向かって自分の足で歩き出すための対応を考え、学び合っていきたいと思っています。(つづく)

## タイ・ユース・ワークキャンプ/スタディツアー

熊本YMCAでは、タイ北部の山岳地帯を訪ね、少数民族の人々と交流する「タイ・ユース・ワークキャンプ」「タイ・スタディツアー」を実施します。異文化や多様な価値観にふれ、新たな自分を探してみませんか。

	タイ・ユース・ワークキャンプ	タイ・スタディツアー
期 間	8月21日(火)～8月30日(木) 9泊10日 ※青少年対象	8月21日(火)～8月27日(月) 6泊7日 ※大人対象
費 用	180,000円	150,000円
場 所	タイ チェンライ・チェンマイ	

◎青少年に限り2～3割の参加費の助成を申請することができます。

## 使用済み切手収集キャンペーン

YMCAフィランソロピー協会では、7月～8月に使用済み切手収集キャンペーンを展開します。集まった切手は社団法人日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)に送られ換金され、医療に恵まれない地域に医師や看護師を派遣するなど海外医療活動の資金として活用されます。使用済み切手1枚から始まる国際協力にご協力ください。



【収集のポイント】切手のまわりを5mmから1cm空けて切り取ってください。普通の80円切手でも可。傷のついた切手や料金・消印が印字されたメータースタンプは換金できません。

お問合せ 熊本YMCA ICR TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877  
E-mail icr@kumamoto-ymca.org

## TOPICS 地域YMCAにまつわる人・モノ・場所などを順番にご紹介します。

### ウエルビー元気に営業中

中央



4月に障がいのある人の就労支援事業を開始しました。現在9名が日々の仕事に励んでいます。仕事の内容は中央YMCAカフェテリア「ウエルビー」の調理補助、カウンター業務、清掃などです。お昼になるとたくさんのYMCA学院の学生たちが食事に訪れ、従業員との自然なコミュニケーションが生まれつつあります。

一般の方でもご利用可能で、食事を取ることが障がい者の就労支援につながります。皆様のお越しをお待ちしています。

中央YMCA 藤川登士郎

### ミシガンキャビン

阿蘇



おかげ様で阿蘇YMCAは1952年の開設から今年で60周年を迎えます。様々な記念事業を予定していますが、その一環として、未来を担う子どもたちの限りのない成長に寄与すること、また地域にさらに深化することを願い、現在、ミシガンキャビンの改修を行っています。ミシガンキャビンは1956年に米国ミシガンYMCAから寄贈され、1982年に30周年を記念して再度建てられた伝統あるキャビンです。

この事業は多くの方々の貴重な募金によって実現されます。皆様のご協力をお願いします。

阿蘇YMCA 櫻間博継

### 地域の皆様とともに

リフレス



リフレスおおむたには、広いキャンプ場があります。夏には多くの利用者でにぎわう場所です。これからの時期は、キャンプ場をきれいに維持するために定期的に草刈りや剪定を行います。今年からその作業を地元四ヶ地区の方にも月1回お手伝いいただいています。汗が滝のように出る炎天下での作業にもかかわらず、多くの人がボランティアで来てくださることに大変感謝しています。

地域の皆さんとともにリフレスと地域を活性化していけることをとてもうれしく思います。

リフレスおおむた 眞西優治

## Kumamoto YMCA Network

- |            |               |               |               |
|------------|---------------|---------------|---------------|
| 中央YMCA     | ☎096-353-6391 | ながみねファミリーYMCA | ☎096-385-0676 |
| YMCA学院     | ☎096-353-6393 | むさしYMCA       | ☎096-248-6334 |
| YMCA学院高等学校 | ☎096-353-6391 | 阿蘇YMCA        | ☎0967-35-0124 |
| 本部事務局・ICR  | ☎096-353-6397 | 赤水保育園         | ☎0967-35-0024 |
| みなみYMCA    | ☎096-378-9370 | 尾ヶ石保育園        | ☎0967-32-0213 |
| 上通YMCA     | ☎096-352-2344 | 永草保育園         | ☎0967-32-0810 |
| 東部YMCA     | ☎096-382-6661 | 黒川保育園         | ☎0967-34-0402 |
| 水前寺幼稚園     | ☎096-362-4141 | リフレスおおむた      | ☎0944-58-7777 |



## 思いやり 誠実さ 責任感 尊敬心 キャラクター・ディベロップメント推進中

みなみYMCAの北側の正面玄関カウンターの上には成人プログラム参加者の方々からいただいた、たくさんの植木鉢が置いてあります。緑があるだけで心が癒されます。何よりYMCAのためにお持ちいただいたことがとてもうれしく、やさしい気持ちに感謝しながら大事に育てていきたいと思っています。そして誰かのために「思いやり」を持って自ら行動することを改めて、気づかせていただきました。



(みなみ 厚地洋子)

【基本聖句】喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマの信徒への手紙12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会  
ウェルネス活動

地球環境の保全  
ボランティア活動

生涯学習の推進  
平和な世界

■ホームページ [www.kumamoto-ymca.or.jp](http://www.kumamoto-ymca.or.jp)

■メールマガジン登録  
[www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi](http://www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi)

